



## 今年度も県の事業に対する御理解と御協力を！

今年度も愛顔あふれる子供たちの育成を目指して、各種事業を推進していきます。

### 1 えひめ版学力向上推進事業

昨年度は、CBT版「愛媛県学力診断調査」、「チャレンジテスト」の実施をはじめ、電子版読書通帳「みきゃん通帳」、「タイピング検定アプリ」の活用等、EILSを積極的に利活用いただき、ありがとうございました。今年度は、EILSの更なる利便性の向上を目指し、「EILS×読み物教材」と『EILS-PBT』の試験導入（従来の紙テストを採点するシステムをEILSと連携させ、採点の効率化を図るシステム）を進める予定です。

また、授業改善の更なる推進を図るために、エキスパート・ティーチャーによる授業研究会を開催し、そこで得られた成果を広く県内で共有することとしています。

### 2 不登校児童生徒等支援事業

昨年度は、不登校児童生徒一人一人に寄り添った多様な支援をするために、7市8校の中学校をモデル校として校内サポートルームを設置しました。今年度は、更に1市1町の2校をモデル校に追加し、引き続き、不登校児童生徒の多様な学習機会の確保に努めていくとともに、モデル校で得た知見やノウハウを全県に広げていきたいと考えています。

また、昨年度設置した不登校支援の拠点となる県教育支援センター（メタサポセンター）の機能拡充を図っていきます。具体的には、メタバス上の学びの場であるメタサポキャンパスの受入れ児童生徒数を拡大するとともに、キャンパス内で支援するメタサポキャンパスサポーターを任用し、支援体制の更なる強化を図っていきます。

### 3 えひめジョブチャレンジU-15事業

中学生が県内の多種多様な産業について知見を広め、地域産業や企業等のよさ、地元で働く魅力を実感し、望ましい勤労観や職業観を形成することをねらいとした本事業も、対象を公立中学校に広げて6年目を迎えました。今年度も、市町、企業等との連携を一層深め、東・中・南予の各地域の特性や強みを生かした5日間の職場体験学習等が実施できるよう、中学生のキャリア教育を支援していきます。

また、小学校におけるキャリア教育の充実を図るため、昨年度初めて開催したプレジョブチャレ「夢わく Work（わくわく）フェスタ」を今年度も行います。御協力をよろしくお願いいたします。

## 「チーム学校」での取組を！

これからの学校が教育課程の改善等を実現し、複雑化・多様化した課題を解決していくためには、学校の組織としての在り方や、学校の組織文化に基づく業務の在り方などを見直し、「チームとしての学校」を作り上げていくことが大切だと言われています。

チーム学校とは、「校長のリーダーシップの下、カリキュラム、日々の教育活動、学校の資源が一体的にマネジメントされ、教職員や学校内の多様な人材が、それぞれの専門性を生かして能力を発揮し、子供たちに必要な資質・能力を確実に身に付けさせることができる学校」と定義されています。

各学校における「チーム学校」を実現させるために、ぜひ、先生方におかれましては、次に示すような姿勢を大切にしながら、日々の教育活動に当たっていただきたいと思います。

### ○一人で抱え込まない。

一人でやることには限界があります。一人で仕事をこなさなくてはという思い込みを捨てて組織で対応しましょう。

### ○どんなことでも問題を全体に投げかける。

些細なことでも、学年会や校務分掌の会議、職員会議、ケース会議等に報告し、常に問題を学年全体、学校全体として共有しましょう。

### ○管理職を中心に、ミドルリーダーが機能するネットワークをつくる。

トップダウンのピラミッド型組織ではなく、情報の収集と伝達を円滑に進めるためのネットワークを学校の内外につくりましょう。

### ○同僚間での継続的な振り返り（リフレクション）を大切にする。

思い込みや独善を排するために、常に自分たちの考えや行動を自己点検しましょう。

(参考文献：「生徒指導提要」令和4年12月文部科学省 P71、72)

